

助成事業実施報告書

団体名 特定非営利活動法人東大和ごみレスくらぶ

代表者・役職名 氏名 理事長 尾崎美佐子

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

里山の整備ならびに竹林整備に関わる竹の再利用と障害者雇用促進事業へ検証事業

2. 実施団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

1998年(平成10年)1月~3月にかけて、東大和市中央公民館の市民企画講座「ごみとダイオキシン」が、5回連続で開催されました。この連続講座終了後、内容を冊子にまとめようと参加者に呼びかけ、編集をしていく過程で、「東大和ごみレスくらぶ」が誕生しました。

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

NPO 法人東大和ごみレスくらぶでは、従前より実施している狭山丘陵の里山保全としての竹林の保全事業と、竹林の整備によって発生した孟宗竹を使用した竹パウダーを発酵基材とした生ごみ減量事業のノウハウをNPO 法人ふあーむと共有し、上記事業の事業化に伴うフジビリティスタデイを実施すると共に、更にB型障害者就労支援施設の就労支援事業として、整備している竹林で収穫することが出来る筍を使用した志那竹の製造販売の可能性を確認する為の研究開発を実施することを目論んでいるものである。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

NPO 法人ふあーむとの協働で行う里山保全検証事業

- (1)NPO 法人ふあーむと協働で、狭山丘陵の荒廃している竹林の整備を実施する。
- (2)整備により伐採した孟宗竹間伐材を粉碎し、竹パウダーに加工すると共に製造した竹パウダーを生ごみ処理の発酵材料として使用する為に、小分けし梱包を実施する。
- (3)孟宗竹の筍を使い、志那竹の製造の研究開発を実施する。
- (4)整備した里山における野生動物の状況を調査する。

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT.実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME.事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT.事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

- 里山より間引き・伐採された孟宗竹の量 年間 350 本
- 間伐された孟宗竹から加工された竹パウダーの量 9t 4500 リットル
- 間伐された孟宗竹から加工された竹チップの量 3t 1,300 リットル
- 竹を利用した発酵食品の開発として、筍を使用した志那竹の試作を実施し、約 2kg の志那達を製造した。
- 里山の野生動物調査として、トレイルカメラの設置により野生動物の撮影に成功し、野生動物の動線について一定の確認を実施することが可能となった。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

・里山の整備事業としての竹林の整備、間伐した竹のパウダー化、作成した竹パウダーを使用した生ごみのたい肥化については、当初の目的を達成したが、もう一つの大きな目的であった障害者施設とのコラボレーション事業の構築については、その目的を果たせなかった。原因としては、コラボを組む予定であったNPO法人ふあーむの就労支援施設としての認可事業が大幅に遅れ、利用者となる知的障害者の方々の募集ができなかったことがあげられる。その原点は多々あげられるが、いずれも行政との兼ね合いがあったことだけここでは記したい。ただ新たな目的として、里山のポリネーター(受粉者)としての日本ミツバチの飼育が課題として見つかったことが幸いであり、今後里山保全、野生動物の保護につながりうる活動として育てていきたい。

7. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動状況の写真などを参考資料として提供してください。

参考資料あり ・ 特になし

活動写真 2020 年

